

論文審査の要旨

報告番号	修第 1269 号	氏名	椿 美智博
論文審査担当者	主査 富田真佐子 副査 上條由美 副査 鈴木久義		
(論文審査の要旨)			
救急搬送された患者家族の臓器提供意思決定支援のあり方についての検討 —患者家族に配布された調査票の分析—			
<p>上記論文は、救急搬送された患者家族の臓器提供意思に関する研究であり、これまで研究が少なかった分野における貴重な論文である。システムや臓器提供による家族の心のケア、意思決定支援方法について確立されていない中、椿美智博氏は自身の臨床経験からの疑問を研究疑問につなげ、真摯に研究に取り組んだ。</p> <p>本研究は、救急搬送された患者の家族が臓器移植に関して回答する調査票の量的分析と看護記録の質的分析の手法を組み合わせた mixed methods を用いている。調査票は1年間分のデータ 1,548名の調査票を対象とし、看護記録は12名分を内容分析によって家族の語りを丁寧に分析している。調査票の分析結果からは臓器意思表示カードや保険証により本人の意思が確認できる家族は3%にも満たず、本人の意思が分からない中で家族は臓器を提供するか否かの決断をしなければならない状況が明らかになった。移植コーディネーターの介入を希望する家族も非常に少なく、多くの家族はどのように良いかわからない混乱した状況であることが示された。この現状を数値的に示すことができたことは、まず第一に評価すべき点である。さらに、このような状況にある家族に対し、どのような臓器提供の意思決定支援をすべきであるかを検討するために、質的に分析をすすめた。家族の語りを丁寧に分析し、家族が「死を受け止めることが出来ない時期」を経て、「患者の死を認識し、今後の方向性を検討する時期」のなかで、どのようなプロセスを辿っていくのかを示している。具体的な「語り」の例を示しながら説明し、概念図を構築することで理解しやすい内容になった。考察では、結果に基づいて今後の支援のあり方について文献を用いながら述べ、臓器提供の意思決定支援のあり方についても述べている。</p> <p>本論文は、1年間のデータの分析と質的な分析により、これまでに明らかにされてこなかった救急搬送された家族の臓器提供に対する意思決定の現状とプロセスを示した修士論文に値する論文である。今後、意思決定支援の充実に向けて重要な参考資料になるとと思われる。</p>			